

巻頭言 障がい者歯科（全身麻酔下歯科治療）はじめました



< 歯科麻酔科 講師 増田陸雄 >

歯科麻酔科診療科長の増田陸雄です。はじめまして。突然ですが、皆さんは歯科治療に対してどんな印象があるのでしょうか。ちなみに、私は苦手です……。注射や歯を削っているときの痛み、キーンやカチャカチャという音、薬剤の臭いや味など、苦手な理由はいっぱいあります。ただ苦手とはいつても、多少我慢して治療は受けられます。

しかし、一方では歯科治療が本当に苦手で、治療中に気分が悪くなる方もいらっしゃいます。歯医者さんでの嫌な思い出によって、歯科医院に行くことすらできなくなってしまう場合もあります。歯科麻酔科は、このような方々に対して全身麻酔や静脈内鎮静法を行い、快適に歯科治療を受けていただけるようサポートをしています。

歯科で全身麻酔！？と思われるかもしれませんが、顎の骨に埋まっている親知らずの抜歯など局所麻酔だけでは痛みが防げない手術にも全身麻酔は必要となり、当院での全身麻酔症例は年々増加しています。

当院は大学病院として多くの専門診療科があり、各診療科とリアルタイムに情報を共有しながら診療を行うことが可能で、全身疾患のある患者さんでも安心して診療を受けていただけます。

全身疾患のある患者さんの中でも自閉症や発達障害、脳性麻痺などの患者さんでは、歯科特有の雰囲気になれず、治療中に動いてしまう方がいらっしゃいます。歯科ではドリルなどの器具を使いますので、治療中はじっとしていただかないと危険ですし、治療ができなくなることもあります。

このような障がいをお持ちの患者さんに対して、今年4月から横浜市の北部地域で数少ない「日帰り全身麻酔下での障がい者歯科診療」を開始しました。全身麻酔を用いることによって眠っている間に治療を受けていただいて、終わったらその日のうちにお帰りいただけます。日帰り全身麻酔の診療日は土曜日に設定しておりますので、学校や仕事を休まずにすむと好評をいただいています。当院では原則として全身麻酔下での治療だけを行い、治療がおわったら、かかりつけの歯科医院で日常必要となる診療を継続していただきます。かかりつけの歯科医院と連携を密にとりながら、障がい者歯科診療を地域全体で行いたいと考えています。

私たち歯科麻酔科は、歯科治療が苦手な方を全力でサポートいたします。何らかの理由で町の歯科医院では治療を受けることができない方がいらっしゃいましたら、当院の歯科・歯科口腔外科にご相談ください。お待ちしております。

日帰り全身麻酔下歯科治療の対象となる方

- ・ 歯科治療が本当に苦手な方
 - ・ お口の中に物が入るとオエツとなる方
 - ・ 何らかの障がいで、町の歯科医院では治療ができない方
- ※手術になる場合は、原則入院になります



- P1. 【巻頭言】障がい者歯科はじめました
- P2・3. 【医学講座コーナー】慢性腎臓病について
- P4. 【お知らせ】年末年始の外来診療について
- 【お知らせ】外来担当医の休診情報について
- P5. 【患者さんからのご意見・ご要望】
- P6. 【お知らせ】大晦日の病院食（夕食）について
- 【編集後記】

医学講座コーナー 慢性腎臓病について

(腎臓内科・血液浄化室長 准教授 伊藤英利)

慢性腎臓病（CKD）とは、何らかの腎障害が3か月以上持続する場合とされています。あまり耳にしないかもしれませんが、実は20歳以上の成人の8人に1人も患者さんがいると考えられおり、決して少なくありません。

慢性腎臓病の怖いところ

「なぜ怖いか」→

初期には自覚症状がほとんどありません！

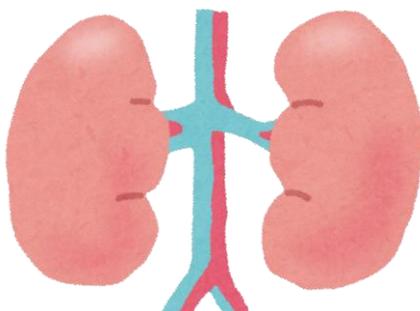
そして放置していると無症状のうちに進行し、ある段階まで悪化すると自然に治ることはなく、最終的には透析療法や腎移植が必要となってしまいます。日本には透析患者さんは33万5千人以上おり、年間4万人ほど増えています。

透析が必要となった患者さんの主な原因疾患ベスト3

第1位	糖尿病 → 糖尿病性腎臓病
第2位	慢性糸球体腎炎
第3位	高血圧 → 腎硬化症

加えて、腎機能が悪くなると心筋梗塞や脳卒中などの心血管病を引き起こす頻度が高くなります。そして認知症とも関連することも示されています。

さらに様々な疾患の治療に支障を来します。日本人の死因の第1位である悪性腫瘍は、化学療法や外科手術の進歩により、その生命予後は良くなりましたが、腎機能が悪いと十分な治療を受けることが出来ない場合があります。



医学講座コーナー 慢性腎臓病について（つづき）

慢性腎臓病はどのように診断されるのか

① 血液検査で腎機能の異常がある。

以前は血液検査の測定項目の1つ「クレアチニン」で腎機能を評価していましたが、近年はこれに加えて「eGFR」という項目で評価するようになってきました。これが60未満で続いていると腎機能が低下していると診断します。

病期ステージ	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4	ステージ5
eGFR値	90以上	60~89	30~59	15~29	15未満
腎臓病の程度	 正常				 腎不全
治療法		生活改善・食事療法・薬物療法			透析療法・腎臓移植

② 尿検査で異常がみられる。

たんぱく尿や血尿がみられた方も要注意です。

腎臓病を早期発見するにはどうすれば良いか

年1回は定期的に健康診断を受け、尿や血液検査をすることが最も重要で早期発見につながります。たんぱく尿や血尿が陽性の方、血液検査で「腎機能が悪い」と言われた方はまず掛かりつけの医師に相談してください。

慢性腎臓病と言われたら

可能な限り、腎臓を悪化させた原因や病気の治療を十分に行うことが重要です。そして規則正しい生活、適切な食事・血圧管理などが大切です。なお喫煙は腎機能を悪化させる一因ですから**禁煙が原則**です。また頭痛薬などの痛み止めや漢方薬も、腎機能を低下させる可能性があるため注意が必要です。先ほど書いたように、慢性腎臓病はある段階まで悪化すると、自然に治ることはありませんが、早期に対処すれば重症化を抑え、悪化するスピードを遅くできる可能性はあります。

昭和大学横浜市北部病院は腎臓専門医が揃っておりますので、

腎臓で気になることがあればご相談ください。

【お知らせ】年末年始の外来診療について

下記の年末年始の期間、外来診療を休止いたします。

外来診療休診期間：2020年12月29日（火）～2021年1月3日（日）

上記期間は外来診療の電話予約（予約センター）も休止いたしますので、ご了承ください。
1月4日（月）より通常診療を行いますので、ご理解・ご協力のほどお願いいたします。



【お知らせ】外来担当医の休診情報について

当院ホームページにて、各診療科
外来担当医の休診情報を掲載しております。

休診情報は、ホームページ トップペ
ージのうち「最新情報」の欄に掲載し
ています（週一回更新）。

ただし、医師の急な都合等により、休
診情報を掲載できない場合がございます
ので、予めご了承ください。

【 外来担当医 休診情報 】

※ 11月6日(金) 現在

休診日	診療科名	医師名	備考
11/9 月	眼科	遠藤講師	
11/11 水	産科	土肥講師	
11/12 木	眼科	遠藤講師	
11/12 木	内科（腎臓）	緒方教授	
11/13 金	形成外科	大塚教授	
11/13 金	呼吸器センター-外科	北見教授	
11/13 金	内科（糖尿病・内分泌）	高田講師	
11/13 金	眼科	薄井講師	

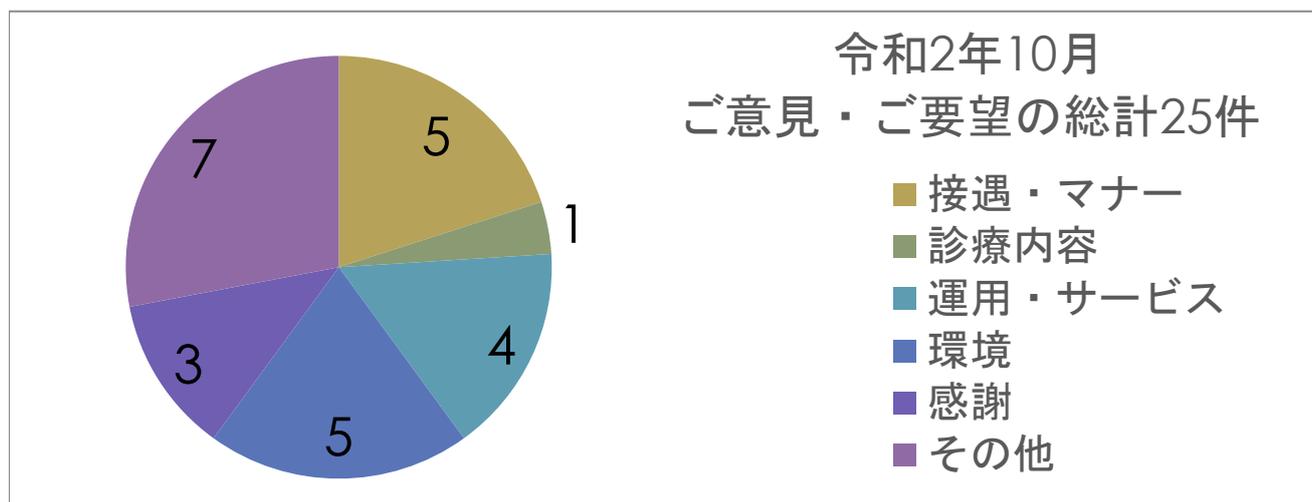
患者さんからのご意見・ご要望

日々患者さんよりいただきましたご意見・ご要望に関しましては、病院長及び関連する部署の責任者に報告し、改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近のご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきます。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
<p>本日、入院しました。 お世話になります。 実は、枕元の上に額入りの絵が飾ってあるのですが、万一落ちた場合のことを考えると心配です。 絵は、たいへん心が和みますが大丈夫でしょうか。</p>	<p>この度は不安な思いをさせてしまい、申し訳ございません。額入りの絵につきましては、固定具によって壁にしっかりと固定されており、安全性に問題が無いことを確認いたしましたので、安心してお過ごし頂ければと存じます。 今後も、ご心配等ございましたら遠慮なさらずご相談ください。貴重なご意見、ありがとうございました。</p>
<p>聴覚障害者です。 障害を伝えても、受付等マスクをつけたままでよく分かりません。 大きな声を出せば聞こえるわけではないので、配慮してほしいです。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 当院では聴覚障害者の方へ筆談で対応することにしておりますが、マスクをつけたままでは言葉を読み取る手段のひとつである口元が見えなくなることも考慮し、マスクに代えてフェイスシールド着用で対応するなど感染症対策にも注意しつつ、患者さんに合わせた対応を心掛けてまいります。</p>
<p>中央棟地下1階の面会受付での検温は、非接触型の体温計でお願いできないでしょうか。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。 現在、非接触型の体温計による検温は、中央棟1階正面入口と地下1階入口、そして西棟2階連絡通路の三ヶ所で実施しております。 また、ご指摘いただきました面会受付（中央棟地下1階）につきましても、非接触型の体温計が入手出来しだい、運用してまいります。</p>



大晦日の病院食（夕食）について

（栄養科 森下 美智子）

早いもので一年の締めくくりの時節となりました。大みそかに年越しそばを食べる風習は諸説ありますが、江戸時代から定着したとされています。

植物のそばは、雨風にうたれても太陽を浴びると元気を取り戻すというところからそばのように強く、そして細長く伸ばして作るため健康長寿の縁起を担いだようです。

また、他の麺に比べて切れやすいので一年の苦労や災厄を断ち切りたいと願いを込めながら食べられるようになりました。



＜昨年度の大晦日の病院食＞

そばには、毛細血管を強くし高血圧予防にも良いとされているポリフェノールの一種ルチンが豊富に含まれており、食後の血糖値上昇度を指す指標、GI（グリセミック インデックスの略）値が低く、低GI食品としても注目されています。

当院も、大みそかに年越しそばと天ぷらを提供させていただく予定です。

年末に向けて寒さが厳しき折、皆様どうぞご自愛ください。

編集後記

2020年もう師走ですね。日本だけでなく世界中が未知のウイルス感染症にかく乱され苦しめられた一年でした。これまで小児科医として患者さんと一緒に様々な難病や重い疾患と向き合う中で、直接的な壁となるのはいつも感染症だったような気がします。どれだけ文明・テクノロジー・医学が発展していても、人間よりもはるかに小さな、目に見えない生命体（ウイルスが生物か否かはさておき）に翻弄されてしまう。医療者として、出来ないことは無いなどとおごってはいけないと感じます。

だからこそ人間がもつ理性や、自分と周りの人を大事に思う気持ちで、皆でこのコロナ禍を乗り越えていけるといいですね。

（こどもセンター 助教 阿部泰子）



北部病院だより 第150号
2020年12月1日発行

発行責任者 門倉 光隆（昭和大学横浜市北部病院長）
編集責任者 緒方 浩顕（広報委員会 委員長）
発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1
電話 045-949-7000(代表)

URL : <http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html>
北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。